

肺炎とは

細菌、ウイルス、真菌(カビ)、誤嚥などが原因となり肺に炎症を起こしている状態です。
(パラインフルエンザウイルスやアデノウイルス2型はわんちゃん用の混合ワクチンで予防できます)
他にもタバコの副流煙や消臭スプレーなどの化学物質の吸引も刺激となることがあります。

《症状》

- 咳
- 呼吸困難
- チアノーゼ
- 発熱
- 元気、食欲が無い 等

《診断》

胸部レントゲンで肺野が白っぽい場合、肺に何かが起こっていることが分かります。

肺水腫や他の肺疾患との鑑別は血液検査やエコー検査なども併せて行います。

また、「吐いた後から呼吸が悪くなった」と言う場合には誤嚥性肺炎を強く疑います。

本人の状態が悪い場合には酸素吸入や治療を優先して行う必要があり、すべての検査を行えない可能性があります。



《治療》

◆ 酸素吸入

体が低酸素状態になっているため、残存した肺機能で呼吸が賄えるよう酸素吸入が必要です。通常の空気中の酸素濃度は21%ですが、酸素濃縮器を用いて酸素濃度を40%程度にした入院室が酸素室です。酸素室内で安静にしてもらいます。

場合によってはレンタル酸素室をご自宅に設置してもらい、在宅で治療を行うこともあります。

◆ 内科治療

細菌や誤嚥が原因の場合抗菌剤や少量のステロイドで治療を行います。

真菌が原因の場合は抗真菌薬を使用します。

ウイルスが原因の場合は特效薬が無いため、二次感染を防ぐために抗菌剤を使用します。

《誤嚥性肺炎》

ごはんを食べた時、水を飲んだ時、嘔吐したときなどに誤って気管に入ってしまう、異物やそれに含まれる細菌によって肺炎を起こします。

高齢になり嚥下機能が低下したり、介護中の給餌、麻酔から覚める際の嘔吐などが原因となりやすいです。また、歯周病があり口腔内細菌が非常に多い状態での誤嚥は肺炎が重度になりやすいとされています。

吐物の誤嚥では胃酸が肺組織を傷つけてしまい一気に症状が進むこともあります。

短時間で急激な状態の悪化を招くこともあり、経過や状態によっては突然死の危険性も高い疾患です。